

見えなくても

できる。



YouTube

で配信中!



<https://youtu.be/H9bCVLQZ7wI>

視覚障害があると何もできないのでは?といませんか?

それは……**NO!**です。視覚が必要なこと以外は何でもできちゃいます。

視覚障害があっても生き活きと。日々の工夫や訓練の積み重ねで今の「できる」毎日があります。

法人設立 40 周年一。この節目に、

視覚障害になると「何もできなくなる」というイメージを払拭すべく動画作成に取り組みました。

沢山の方にご覧いただき、「見えなくてもできる!」のイメージが広がることを願っています。



社会福祉法人 京都視覚障害者支援センター

〒610-1111 京都市西京区大枝東長町 1-67 TEL 075-333-0171 / FAX 075-333-0172

[E-mail] [info@kyo-ssc.com](mailto:info@kyo-ssc.com) 【ホームページ】<https://kyo-ssc.com/>

## 【8050 モンダイ】

# 80 歳代の親が 50 歳代の子どもの生活を支えている問題。

背景にあるのは子どもの「引きこもり」です。

「引きこもり」という言葉が社会で使われるようになった 1980 年代～90 年代。当時は若者の問題とされていました。それから約 30 年が経ち、当時の若者が 40 歳代から 50 歳代となり、その親は 70 歳代から 80 歳代になっています。

こうした親子が社会的に孤立し、生活が立ちゆかなくなる深刻なケースが目立ち始めています。中途失明者をはじめとする視覚障害者も、高齢の母が 40 歳～50 歳代の視覚障害のある子供を養護しているケースが相当数存在していると思われます。

実際、当法人が運営する「障害者支援施設洛西寮」でも、2020 年から立て続けに 8050 問題でニーズのある方が入所に結びつきました。

現在洛西寮では、そうしたニーズに対して受け入れる体制作りをしています。洛西寮は単なる入所して生活をするだけのところではなく、見えなくなって喪失したものの中で、これから何が必要か、自分が何を欲しているのか、こうありたい、こうなりたい等、自己理解を深めていただき、生活を通してじっくり猶予期間を味わうことで、希望をその手につかんでいただくよう、きつかけ作りのサポートに努めています。

8050 問題で相談がありましたらご連絡下さい。

自立に向けた新たな一歩のお手伝いをさせていただきます。

### 洛西寮ですごし新たな一歩を踏み出した“K さん”

“K さん”のインタビューを  
ホームページに掲載しています

■洛西寮入所に至った理由  
目が悪くなってから  
それまでの仕事ができなくなり、  
何年もの間、世間から離れていた。  
徳島の田舎に母と二人で住んでいたが、  
自分が 8050 問題の年齢……  
50 歳になった時、  
将来について考えた。  
親族から  
洛西寮の存在を聞いていたので、  
一度、徳島にはない、  
こういう施設で生活してみても、  
自分の人生を  
前向きに捉えようと思った。  
(ホームページより一部抜粋)

行動に移したから  
今の自分がいる。  
道が見えた。  
残りの人生立ち止まらず  
過去は思い出  
未来に向かって欲しい。